

# 第27回日本近代仏教史研究会

## 研 究 大 会

## プ ロ グ ラ ム

【井上円了没後 100 年記念シンポジウム】  
井上円了／哲学館／近代仏教

場所：東洋大学（白山キャンパス）5号館

日時：2019年6月1日（土）

協力：東洋大学・井上円了研究センター

## 第27回日本近代仏教史研究会研究大会プログラム

日時：2019年6月1日（土）

場所：東洋大学（白山キャンパス）5号館

受付開始：9:00（大会本部：5号館2階5203教室）

参加費（会員、非会員）：1,000円、懇親会費：5,000円（大学院生は4,000円）

\*シンポジウムは一般公開（参加費無料）

午前の部	第1部会(5号館2階5201)	第2部会(5号館2階5202)
9:30～10:00	谷釜智洋(東洋大学・院) 「真宗大谷派による「昭和天皇」奉賛とその展開」	栗本 真好(花園大学卒業) 「書評・山川徹著『カルピスをつくった男三島海雲』」
10:00～10:30	楽星(東北大学・院) 「大陸に立つ—昭和期における大谷光瑞とアジア主義—」	山口陽子(東北大学・院) 「加藤咄堂の排耶思想—仏教公認教運動を背景として—」
10:30～11:00	名畑直日児(真宗大谷派教学研究所) 「『関根仁応日誌』と近代仏教」	呉佩遙(東北大学・院) 「信仰言説と雑誌『新仏教』—境野黄洋を中心として—」
11:00～11:30	戸田教徹(立正大学・院) 「田中智学の本尊論—日蓮門下統一本尊制定に向けて—」	ジュリオ・ナシメント(東北大学・院) 「世紀転換期における大内青巒の在家仏教観」
11:30～12:00	名和達宣(真宗大谷派教学研究所) 「親鸞教学と日蓮主義—曾我量深を中心に—」	亀山 光明(東北大学・院) 「念仏と戒律—釈雲照『十善戒法易行弁』を中心として—」
12:00～13:15	休憩 運営委員会・評議員会(5号館2階5204教室)	
午後の部	第1部会(5号館2階5201)	第2部会(5号館2階5202)
13:15～13:45	ユリア・ブレニナ(大阪大学) 「日蓮主義と九識論」	三浦周(大正大学) 「『新仏教』概念の射程」
13:45～14:15	梁明霞(中国華南師範大学) 「『満州事変』前後日蓮宗が中国東北地方における動向—『日蓮主義』を中心に—」	東野隆弘(慶應義塾大学・院) 「子安大師講の考察—香園寺「人と仏」戦後分による—」
14:15～14:45	マイカ・アワーバック(ミシガン大学) 「昭和初期における欧米人参禅受入の試み—八幡達磨堂円福寺「外人禅堂」を中心に—」	碧海寿広(武蔵野大学) 「科学化する密教—祈祷論を中心として—」

<b>午前の部</b>	<b>第3部会(5号館2階5208)</b>	
9:30~10:00	渡邊剛(早稲田大学・院) 「黒坂勝美の聖徳太子論」	
10:00~10:30	簡冠剣(東北大学・院) 「大正新脩大蔵経と対支文化事業 —中国寄贈事業を中心に—」	
10:30~11:00	武井謙悟(駒澤大学・院) 「近代仏教研究において、なぜ儀礼は扱われる ことが少ないのか」	
11:00~11:30	高橋秀慧(大正大学・院) 「幕末京都の政治都市化と寺院 —宗派横断的な視角による再検討—」	
11:30~12:00	池田智文(ノートルダム女学院中学高等学校) 「鷲尾順敬における仏教史学と国民思想」	
12:00~13:15	休憩 運営委員会・評議員会(5号館2階5204教室)	
<b>午後の部</b>	<b>第3部会(5号館2階5208)</b>	
13:15~13:45	栗田英彦(南山大学) 「思想戦と仏教—日本神話派を中心に—」	
13:45~14:15	宗岡卓治 「中原中也と近代仏教の関係について」	
14:15~14:45	オリオン・クラウタウ(東北大学) 「近代仏教と日本思想の語り方」	
14:45~15:15	吉永進一(京都舞鶴高等専門学校) 「催眠術と仏教」	
<b>井上円了没後100年記念シンポジウム(5号館地下1階5B12教室)</b>		
15:30~17:40	「井上円了／哲学館／近代仏教」 報告者:大谷栄一(佛教大学)、佐藤厚(東洋大学東洋学研究所) 三浦節夫(東洋大学) コメンテーター:岡田正彦(天理大学) コーディネーター・司会:長谷川琢哉(親鸞仏教センター)	
17:50~18:45	会員総会	
18:45~20:45	懇親会(8号館1階 Tres Dining)	

# 井上円了没後 100 年記念シンポジウム 「井上円了／哲学館／近代仏教」 開催趣旨

本年は、私立学校哲学館（現東洋大学）を創立した井上円了の没後 100 年にあたる。井上円了は理論面・実践面から独自のかたちで仏教の近代化に貢献した人物として知られており、ここ東洋大学でも創立者である井上円了についての基礎研究が進められてきた。そこで今回のシンポジウムでは、井上円了没後 100 年を記念して、井上円了と近代仏教の関わりをあらためて問うことを試みる。

そしてこの際、本シンポジウムでは、もう一つの新たな視点を設定した。井上円了が創立した哲学館には、近代仏教に関わる多くの人物が関与していた。とりわけ「新仏教」運動を中心的に担ったのは、哲学館出身の仏教者たちであるし、また村上専精・清沢満之などの仏教者たちも、数多く哲学館の教壇に立っている。その意味で哲学館は、仏教の近代化において決して見落とすことの出来ない重要な位置を占めているが、しかし従来の研究では、この哲学館という場所そのものには十分に光が当てられてこなかったように思う。そこで本シンポジウムでは、井上円了、哲学館、近代仏教という三者を軸として、それぞれが切り結ぶ関係性をあらためて問い直してみたい。

こうした本シンポジウムのアプローチは、仏教の近代化において井上円了が果たした役割の再評価を目指すものであると同時に、近代仏教の一つの中心地として「哲学館」に注目するという、あらたな研究の方向性を模索するものでもある。三人のパネリストがそれぞれの視点を提起し、このことを多角的に議論することが本シンポジウムの目的である。

タイムテーブル	
15:30～15:35	趣旨説明 長谷川琢哉(親鸞仏教センター・研究員)
15:35～16:55	報告(1人30分) ①大谷栄一(佛教大学・教授) 「新しい仏教」とは何か —井上円了と哲学館系新仏教徒—  ②佐藤厚(東洋大学東洋学研究所・研究員) 井上円了の学位論文『仏教哲学系統論』の内容と意義 —井上家に残された清書原稿を元に—  ③三浦節夫(東洋大学・教授) 哲学館の教育理念と近代仏教  司会 長谷川琢哉(親鸞仏教センター・研究員)
16:55～17:05	コメント 岡田正彦(天理大学・教授)
17:05～17:15	休憩
17:15～17:40	リプライ&全体討論

